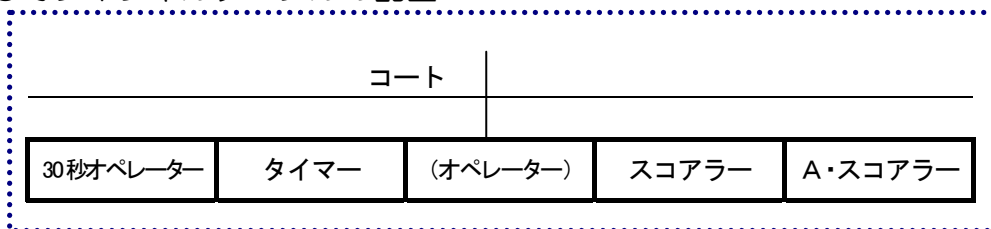


テーブル・オフィシャルズ マニュアル

◎オフィシャルテーブルの配置



(1) スコアラー【スコアシートの記入と審判への合図】

- ・『スコアシートの書き方』を参考に、スコアシートを記入する。
- ・次のことを合図して審判に知らせる。

- ① プレイヤーの5回目のファウル
- ② 各クォーター4回目のチームファウル
- ③ タイム・アウト【前半・後半及び各延長時間に1回ずつ】

- 1) タイム・アウトは、審判が笛をならして時計を止めたときか、相手チームのフィールド・ゴールが成功したとき(ボールがシューターの手から離れる前までに申し出が必要)に認められる。
- 2) フリースロー・シューターまたはスローインするプレイヤーが、ボールを持ったときは、合図をひかえ、次の機会まで待つ。



④ タイムアウトのときの交代

※合図のブザーは長め(3秒程度)の1回『ブー——』

(2) アシスタント・スコアラー【アナウンスとファウルの回数表示】

- ・スコアラーに協力する。(得点、得点者をアナウンス)
- ・その都度、プレイヤー、チームファウルの回数を表示する。
- ・TOを4人でやる場合は、デジタイマーの得点表示やポジション・アローも担当する。

○オペレーター【デジタイマーの得点、ポジション・アローの表示】

- ・TOを5人でやる場合に着席し、デジタイマーの得点表示やポジション・アローを担当する。

○ポジション・アロー

※表示器具の操作は、スコアラーの担当となっているが、負担を減らすため、アシスタント・スコアラー又はオペレーターが担当する。

- 1) ゲーム開始のジャンプボールでボールを保持した相手チームの攻撃する方向を⇒で示す。
- 2) そのあとは、ジャンプボールが宣せられるたびに交互にスローインが与えられるので、矢印の向きを変える。



(3) タイマー【ゲーム・クロックとストップ・ウォッチの操作】

- ・前半と後半の開始3分前と1分前に合図器具をならす。
- ・競技時間(6分)、クォータータイム(1分)、ハーフタイム(5分)、インターバル(2分)、延長時限(3分)の時間をはかり、それぞれの終わりに合図器具をならす。
- ・タイム・アウトの時間をストップ・ウォッチではかり、50秒で1回目、60秒で2回目の合図をならす。

1) ゲーム・クロックを動かすとき

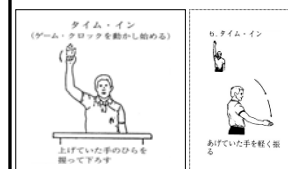
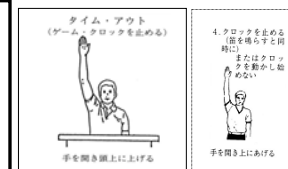
- ・ジャンプ・ボールの場合、ジャンパーがボールをタップしたとき
- ・スロー・インまたはフリー・スローが不成功でゲームが続けられる場合、ボールがコート内のプレイヤーに触れたとき

2) ゲーム・クロックを止めるとき

- ・各時限が終わったとき
- ・審判が笛をならしたとき(ファウル、ヴァイオリション、ヘルド・ボール、ゲームの中断など)
- ・あらかじめタイム・アウトを請求しているチームの相手チームがフィールド・ゴールで得点したとき

タイムめくり

5	6:00~5:00
4	4:59~4:00
3	3:59~3:00
2	2:59~2:00
1	1:59~1:00
1/2	59'9~30'0
1/4	29'9~15'0
0	14'9~0'0



(4) 30秒オペレーター【30秒計の操作】

- ・30秒計またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にショットをしなかったときには合図をならす。

1) 30秒計のはかり始め

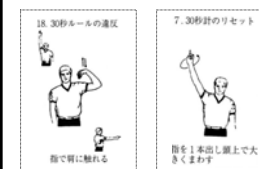
- ・どちらかのチームがコート内でボールを保持(ボールを持つかドリブル)したとき

2) 30秒のおわり

- ・ボールがシューターの手からはなれ、バスケットに入るか、リングに触れたとき
 - ・相手チームがボールを保持(ボールを持つかドリブル)したとき
- ※ボールに触れただけでは保持にはならない
- ・審判が笛をならしたとき(ファウル、ヴァイオリション、ヘルド・ボール、ゲームの中断など)

30秒小旗 (カウントダウン)

なし	0'~14' (30'~16')
黄	15'~24' (15'~6')
赤	25'~30' (5'~0')



スコアシートの書き方

(1) 試合名、会場、日時、試合番号を記入する。

試合名	エコパカップ2007	会場	エコパアリーナ	2007年4月14日(13:30)	No. A-1
-----	------------	----	---------	-------------------	---------

(2) 両チームのチーム名とユニフォームの色、選手の名前と番号、コーチの名前を記入する。

(チームAは、組合せの上側又は左側のチームで、ベンチはTO席に向かって右側となる。)

(3) 各クォーターの始まる前に出場する5人のプレイヤーに「左下がり斜線」を記入する。

(クォーターの途中から出場したプレイヤーは「右下がり斜線」を記入する。)

チーム名... (2)		タイムアウト... (7)								
A (白) レプリーズ		前	後 延 延							
		= X X =								
選手氏名 ... (2) ...	No.	出場時限... (3)		ファウル... (4)						
		①	②	③	④	1	2	3	4	5
1	鈴木 竜一	4	/	/	/	P ₁	P ₁	P ₃		
2	染葉 泰伸	5	/	/	/	P ₂	P ₃			
3	後藤 千春	6	/	/	/	P ₁	P ₁	P ₄	P ₄	
4	近藤 章弘	7	/	/	/	P ₁	P ₃			
5	三輪 泰弘	8	/	/	/	P ₂	P ₄			
11	瀬戸 博行	15	/	/	/	P ₃	U ₃	P ₃		
12	鈴木 始	16	/	/	/	P ₂	P ₄			
13	杉山 之浩	18	/	/	/	P ₁				
14	大島 正弘	19	/	/	/	P ₁				
15	桐畑 英彦	20	/	/	/					
コーチ: 池端 考巳						T ₃				... (5)

チームファウル... (6)

1Q	2Q
1	1
2	2
3	3
4	4

(4) プレイヤーのファウル【パーソナル・ファウルはP、フリースローが与えられる場合はP'】

アンスポーツマンライク・ファウルはU、テクニカル・ファウルはTを記入する。

また、各クォーターを小さな数字で表記する。【P₁、P'₂、U₃、T₄など】

(5) コーチのファウル【T=テクニカル・ファウル、D=ディスクォリファイング・ファウル】を記入する。

(コーチのファウルはチームファウルには含めない。)

(6) チームファウルは、クォーターごとにプレイヤーファウルの都度Xを記入する。

(7) タイムアウト【前半・後半・各延長時限に1回】の記録はXを記入する。

(8) ランニングスコア【フィールドゴール(2点)の場合は、得点数字を□で、フリースロー(1点)の場合は、得点数字を●で消し、となりの枠に得点したプレイヤーの番号を記入する。オウン・ゴールの場合は、▲】

		ランニング・スコア					
	A	B		A	B		
最終	7 ●	1			41	41	
	7 ●	②	4	19	42	42	
	3	3			43	43	
	④	4	5	▲	44	44	
1Q 終了	5	●	5		45	45	
	6	⑤	6	6	46	46	
2Q 終了	15	●	⑦	6	47	47	
	15	●	●	8	48	48	
3Q 終了	4	⑧	●	8	76	76	
	37	37			77	77	
	5	⑩	⑩	15	78	78	
	39	39			79	79	
4Q 終了	6	40	40		80	80	

各クォーター、延長時限の終わりに、各チームの最後の得点を○で囲み、下線をひく。ゲームの終わりは各チームの合計得点を○で囲み、二重下線をひき、使用していないランニング・スコアの列に「右下がり斜線」をひく。
※一列だけでよい。

(9) 各クォーター毎と延長時限は合計の両チームの得点、最終得点、チーム名を記入する。スコアシートの記入がすべて済んだら、A・スコアラータイマー、30秒オペレーター、スコアラ、副審・主審の順にフルネームでサインする。

チームA	チームB	主審 ⑥	A・スコアラ ①
レプリーズ	テクニカルズ	小塩 達夫	大石 和美
合計 46	合計 38	副審 ⑤	タイマー ②
		加藤 慎也	渡辺 徹
		スコアラ ④	30秒オペレーター ③
		塚野 加奈	青山 宜正

2007ルール・TO関係の変更点

(1) 名称の変更

『スコアラール』 ←スコアキーパー

『アシスタント・スコアラール』 ←アシスタント・スコアキーパー

『タイム・アウト』 ←チャージド・タイム・アウト

(2) スコアシートの様式の変更

ランニング・スコアをチェックする一般用のスコアシートに近い様式に変更した。

(3) タイマー関係

前半と後半の開始 3 分前に加えて『1 分前』にも合図器具をならして審判と周囲に知らせることが加えられた。

タイム・アウトなどの時間をはかるための器具に『ストップ・ウォッチ』が加えられた。

タイム・アウトの時間は『50秒で1回目』、60秒で2回目の合図をすることになった。

(4) 30秒オペレーター関係

30秒はボールがシューターの手から離れ、『バスケットに入るか、リングに触れたとき』に終わることに変更した。※ショットされただけでは30秒はリセットされない。

30秒オペレーターの合図がゲームを止めることはなくなった。(審判の笛が止める)

(5) 同点と延長

後半を終わったとき同点の場合『引き分け』とすることが明記された。

※(ただし、主催者の判断で)延長を行う場合は、3分間の延長を『必要回数』行うことに変更された。

(6) 出場と交代

フリースローの前にタイム・アウトがあり、『最後のフリースローが成功したときは、フリースロー・シューターが交代できる』ことになった。

※フリースロー・シューターを交代させたいときは、コーチがテーブル・オフィシャルにはっきりと申し出なければならない。

(7) タイム・アウト

フリースローが行われるときは、『審判がフリースロー・シューターにボールを与える前』であればタイム・アウトが認められることになった。

(8) チームファウル

フリースローが与えられるチーム・ファウルの回数を各ハーフ7回から『各クォーター4回』に変更し、『5回目』のパーソナルファウルからフリースローが与えられることになった。